

<No7 : 基準点測量>

図7は、トータルステーションによる偏心観測について示したものである。図7のように、既知点Bにおいて、既知点Aを基準方向として新点C方向の水平角を測定しようとしたところ、既知点Bから既知点Aへの視通が確保できなかったため、既知点Aに偏心点Pを設けて、水平角 T' 、偏心距離 e 及び偏心角 ϕ の観測を行い、表7の結果を得た。このとき、既知点A方向と新点C方向の間の水平角 T は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、既知点A、B間の距離 S は、1,500mであり、 S 及び e は基準面上の距離に補正されているものとする。

また、角度1ラジアンは、 $(2 \times 10^5)''$ とする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

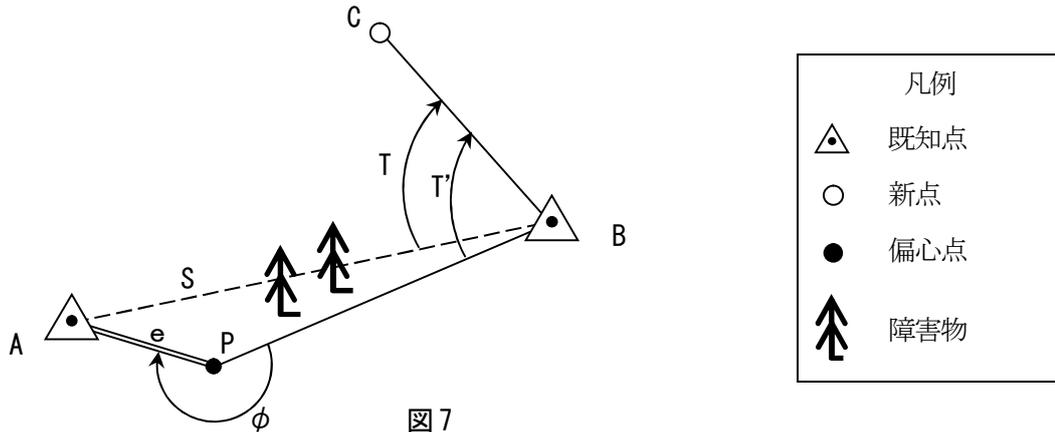


表7

ϕ	210° 00' 00''
e	2.70m
T'	50° 41' 00''

1. 50° 30' 00''
2. 50° 32' 00''
3. 50° 34' 00''
4. 50° 36' 00''
5. 50° 38' 00''